

学府アンケートの分析結果 〔産業マネジメント専攻〕

(1) 授業評価アンケート

① 基礎データ

【授業の知的価値について】

本専攻が提供する授業の知的価値について高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は、それぞれの項目で 80% 以上であり、「知的好奇心をかき立てるものであった(86%)」「期待した知識が授業で得られた(83%)」「ビジネスの実践に役立つと思われる知識が得られた(82%)」となった。

【担当教員について】

本専攻の担当教員について高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は、それぞれの項目で 70% 台後半から 90% 台であり、「熱意(91%)」「学習の目標の明示(81%)」「説明の明快性(79%)」「質問への的確な回答(79%)」「教員知識(92%)」となった。

【講義技術について】

本専攻の担当教員の講義技術について高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は、それぞれの項目で 70% 台後半から 80% 台であり、「授業準備の周到さ(85%)」「教科書、参考書、配布資料などの有用性(83%)」「板書、OHP、スライド、ビデオなどの使い方(80%)」について高い満足度を示していることがわかる。また、「学生が授業中にディスカッションに参加することを奨励されたかどうか」については 76% が Yes(5 及び 4 評価の合計)と答えており、ビジネス・スクールらしい双方向型の授業が行われていることを示している。さらに、81% の学生が「授業は全体としてよくまとまっていた」として、総合的に高い満足度を示している。

【全体的評価・満足度】

各科目に関する総合的満足度について高い満足度を示した学生は 80% 台であり、「全体としてこの授業は極めて有益であった(86%)」「私はこの科目を他の学生にも勧めたい(85%)」など、総合的満足度が高いレベルにあることがわかる。また、学生の学習意欲については、「この授業に意欲的に取組んだ」とするもの(5 及び 4 評価の合計)が 82% に達している。

【科目の特徴】

科目の難しさについては「ちょうど良い(3 ランク)」と「難しい(4 ランク)」程度が適当と考えられるが、3~4 ランクを挙げた学生の合計は 82% であり、全体として適切な水準であると考えられる。但し、科目の一部に「難しい」ないし「非常に困難」と答えた学生が 44% 以上の授業が存在するが、学生を鍛えるためのものであり、特に問題とはならないであろう。

勉学の負荷については「ちょうどよい(3 ランク)」と「やや重い(4 ランク)」程度が適当と考えられるが、全体として 3~4 ランクを挙げた学生の合計は 82% であり、適切な水準と考えられる。

授業のペースについては、「ちょうど良い(3 ランク)」が妥当なレベルであり、65% であるが、

「やや早い」は18%で、適度な緊張感が保たれているものと考えられる。

教員の親近性については、「とても親近感がもてる(5ランク)及び「親近感がもてる(4ランク)」合計で75%であり、大半の教員が適切な教育上の距離を維持しているものと考えられる。

【授業内容の重複】

本専攻の授業は数多く開講されているため、科目内容の重複を調査しているが、問題は見られない。隣接科目における内容の重複はあるものの、異なる角度や異なるレベルでの教育であるため、自由記述にみられる学生の回答も「理解をいっそう深められる」「多面的な視点で学べる」「知識と実務とを相互的に捉えられる」と肯定的である。

【自由記述欄】

自由記述について、一般論としてコメントすることは大変難しい。特に表面的な評価はかえつて状況をmisleadする可能性があると考えられる。アンケートは無記名であるため「当人の学力レベル」「心理状態」「期待の程度」などが挙げないことに加え、各学生が極めて短い言葉で記述しているため、そこでのニュアンスなどを掴み取ることが困難であるからである。例えば「要改善」の項目において、「ディスカッションの時間が少ない」という記述に関する背景については、(a)ディスカッションを行うべき授業なのにディスカッションに割く時間が少ない、(b)ディスカッションの時間を最大限とっているが、面白い授業なのでもっとディスカッションをしたい、(c)ディスカッションが盛り上がりながら終ってしまうなど様々なケースが考えられる。これらのニュアンスは、各科目の教員が自由記述を読んで判断すべきと考えられ、第三者が評価を加えることは限界があると思われる。自由記述そのものの価値は認められるものの、これは当該科目の特徴、教員のくせ、授業内容などを熟知した者でなければ学生の真意を充分に汲み取れない。誤解を生じさせることがない記述もあり、以下ではこの点のみコメントを行う。

本専攻の教育として学生が良いと感じている点で最も多い意見は「説明がわかりやすい」、「理論を身近な具体例を踏まえて説明している」、「熱意のある授業である」、「授業が双方的である」などであった。また「ケースやグループワークが有益」、「教員の専門性が高い」などは、本専攻の実践的教育が高く評価されたものと考えられる。また、「質問に対して丁寧な回答を得られる」「学生の発言を取り入れながら授業を進めていた」などを挙げた学生も多い。一方、学生が不満に感じる点としては、「ボリュームが多い」、「タイムマネジメント」、「講義のペースが速い、遅い」などの要望が若干提示されており、該当する教員は改善努力が必要と思われる。

② 集計結果の概観

【評価の総合的結果】

データ上も自由記述コメント上も、本専攻の前期授業は総合的に高い満足度を得ている。学生は、それぞれの授業について肯定的・否定的両面から様々なコメントを寄せているので、教員は各コメントを読み、授業改善に活かしていくことが重要である。

【組織的に緊急に改善が必要な点】

本アンケート結果をみて、本専攻として、教育上組織的に緊急に改善が必要な点は特に見られない。